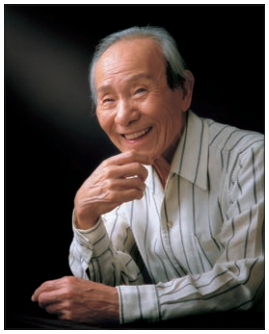
FUJIFILM
Value from Innovation

2017 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集



アルバム

アルバム

アルバム

◆2017富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品集をお届けします。54回目を迎える今回は、皆様にご案内のとおり、応募期間を２か月ほど早めました。この背景には表彰式が秋の業務多忙の時期と重なることから、受賞者にとってご負担の少ない時期に開催することが望ましいという判断から実施したものです。応募される皆様方にとっては、例年と違う時期になって戸惑ってしまい、ご迷惑をお掛けしたかもしれませんが、上記のことをご理解いただき、次回も多数の応募をお待ちしております。

新しい発想による質の高い写真が増加傾向に

◆さて、募集期間を２か月早めたことにより、応募数の減少という不安がありましたが、実際には応募総数9,818点（前年比88.0％）応募者数3,059名（前年比88.5％）の微減という結果になりました。
◆今回の作品の傾向を見てみると、品質面では、以前のようなデジタル特有の嫌みのある色は少なくなり、高いレベルで安定した品質になってきていることを感じます。
◆また、ライティング・構図・構成という部分では、上位になるにつれて素晴らしい作品が多く見受けられました。ただ、一つの傾向として、ある写真家の作風を真似た作品が多く見受けられ、それらは確かに質の高い写真なのですが、本当にその作者独自の作品なのか疑問に思うものも見られました。
◆ウェディングフォト（ロケーション・スナップ）を新設したことにより、新しい感覚のレベルの高いスナップ写真が増えてきており、新しい方の応募も増えてきています。
◆審査の段階で気になった点を挙げると●ピント不良の作品が多く見られた●カメラへの強い光の回り込みによってフレアが発生している写真が多く、ライトカット等でどうカバーしていくか工夫してほしかった●デジタルカメラのアスペクトを考えないで撮影し、プリントの段階で収まりの悪いものが多かった●中途半端に白縁があり、どこまでが作品なのか分からない写真も多く見られた●ハイライトが飛んでいる写真も多く、RAWで撮っても生かし切れていない……これらの点を解消すればもっと良くなっていた作品が多く見られました。
◆分野別に見ていくと、大人ポートレートや家族写真は優れた作品が多いと感じましたが、なかには明るい写真なのに何故ローキー調のバックを使用しているのか分からない家族写真もありました。逆に白バックでもただ単に並ばせて撮っているだけで家族の関係性が感じられない作品も見られました。
◆入園・入学の写真ではバックがスクリーンではなく、セットの家具をバックにしたり、自然な背景を使った、身近な感覚の写真が多く見られ、バリエーションが豊かになってきていることを感じました。
◆成人・振袖、婚礼の部門では、時期的に桜の花をバックに使用した写真が多く、花があることで彩度が高くなってバックに目が行って、主役が引き立たない写真も多く見られました。
◆全体的な傾向としては、新しい発想による撮影が多く見られ、それがここにきてさらに進化し、絵作りや構図等で技術の向上が図られてきているように感じます。
――以上の良い点、改善点を考慮していただき、次回もまた意欲あふれる作品を期待します。

作品集への掲載順は賞の順、写真館様所在地の北から順、同一都道府県内は郵便番号順で掲載しています。一部、レイアウトの都合上、順番の入れ替わりがあります。

CONTENTS

2017 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集

2017 富士フイルム 営業写真コンテスト入賞発表

●金賞 …… 1
●銀賞 …… 2
●銅賞 …… 7
●審査員特別賞 …… 17
●優秀賞 …… 18
●テーマ賞 …… 22
（大人ポートレート写真）
●テーマ賞 …… 26
（家族写真）
●テーマ賞 …… 30
（子供写真）
●テーマ賞 …… 34
（入卒園・入卒学・七五三写真）
●テーマ賞 …… 38
（成人・振袖、婚礼写真）
●テーマ賞 …… 42
（ウェディングフォト（ロケーション・スナップ））
■金賞作家を訪ねて …… 46
■INFORMATION
富士フイルム営業写真コンテスト
表彰式開催 …… 48

金賞

「未生 STYLE」　荒木敬介　はこざき写真館（福岡）

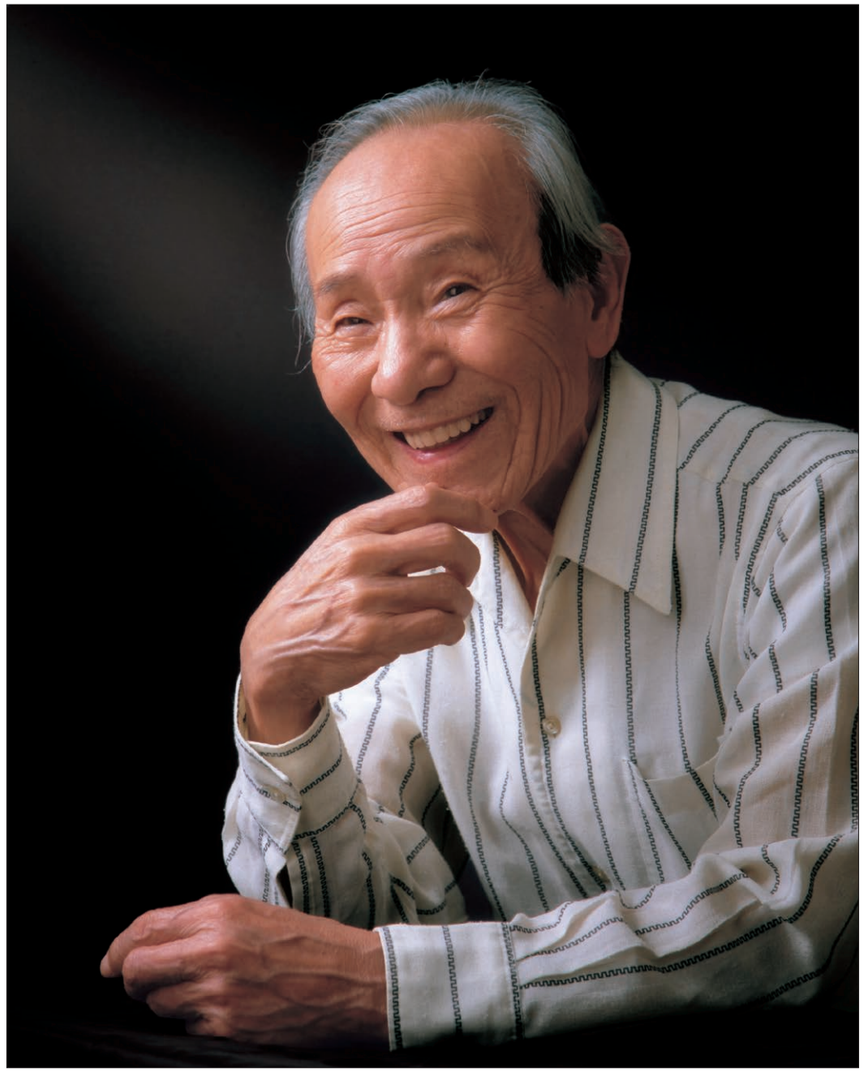
データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F2　1/160　タングステン

■選評

若い女性を、色調とフォルム、表情、背景処理など総合的にとても印象的で魅力ある１枚に仕上げてある秀逸の作品です。バックとのマッチングを含めて全体をアンバー系の色調にまとめ、ソフトなイメージを強調しながら、この女性の魅力的で自然な笑顔を捉えています。脚の形とダメージジーンズで安定感を生み出し、さらに逆三角形の腕とでフォルムにメリハリを持たせ、程よい首の傾げ方と表情とで女性らしさを強調しています。タングステン光の柔らかい、包み込むような光の演出も最適で、随所にプロならではの力量を感じさせる作品です。

■喜びの声

30年チャレンジを続けた富士フイルム営業写真コンテスト金賞を達成できました！本当にありがとうございます。「これでやっと卒業できる！」という思いです。
振り返ると30年前、小崎弘之氏と出会い「荒木君、業界のために動け！そして富士フイルム営業写真コンテストをめざせ！」とご指導をいただきチャレンジしてきました。
25年連続で各賞をいただいてきましたが、金賞には届かず、賞をいただくたびに「これ以上どうすりゃいいの！？」と葛藤の日々でした。
いつもタイトル付けに苦しむのですが、この作品は撮った時に浮かびました。「未生 STYLE」この貴女らしさが撮れた瞬間です。
未生さんは、今時の若者というか天真爛漫で、持って生まれた個性派です。私たちから見ると未来人そのものです。屈託のない表情とポージング、培ってきたライティングを駆使して、彼女らしさが撮れた瞬間、達成感に満足しました。
今までたくさんの先輩や仲間たちと出会い、技術の研鑽、そしていろんな想い出をつくってこれたことは、僕の人生にとっての財産だと思っています。
この場をお借りして感謝申し上げます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ九州ラボ）



「刻む」　松村賢浩　まつむらフォトスタジオ（神奈川）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F7.1　1/125　ストロボ

■選評

オーソドックスながらも、年配の男性を品良く表現した写真です。特に皮膚感の描写が素晴らしく、通常、こうした写真だと皺が強調されがちですが、後処理も含めて綺麗に表現され、この方の人生観をも描き出しているかのような写真に仕上げられています。顎のところに持っていった右手、机に置かれた左手もごく自然で、一連の流れのなかで最適な瞬間を切り取っていると感じます。トップの光もメインライトのコントロールで上手く表現され、卓越したライティング技術が活かされています。画面構成上、左の空間の空け方も素晴らしく、高い技量を感じさせます。

■喜びの声

このたびは、５年連続テーマ賞からの６年目にして、銀賞を受賞できたことが、夢のようなことで興奮が冷めません。そして、自分が気に入っている作品でもあるので、本当にうれしく思います。
作品のお客様は、お孫さんと娘さんとの家族写真を撮りに来ていただき、楽しく家族写真を撮影した後、せっかくだからポートレートも撮ってほしいとご希望があり、撮影させていただきました。
最初はカメラ目線で撮影して、もっとお客様の【らしさ！】を撮影したいと思い、趣味で絵を描いていらっしゃるということなので、「いい被写体を見つけて、ここを書こう！」という気持ちになった雰囲気を表現してみました。
ライティングは、ストロボ２灯とレフ板を使ってシンプルにして、誰もが写真を見た時に、１番最初に表情へ目線がいくように考えました。
最後に、今回の銀賞という栄えある賞をいただけたのも、風雲の会総長柴田代表・丸山先生・大井先生、諸先輩方のご指導のおかげです！そして、いつも刺激をくれる PGC メンバー、風雲の会メンバー！そして、お店をここまで続けてくれている父！いつも側で支えてくれる奥さんと子供たち。たくさんの方たちに支えられて得た大切な銀賞です！これからも、人を感動させる写真が創れるためにも、日々精進していきます！！ありがとうございました！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱東京事業所（調布））

「フォトウェディング」　天野有祐　天野写真室 ETHOS photograph（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　自然光　16㎜-35㎜　50㎜　85㎜　135㎜　100㎜マクロレンズ　アルバム

■選評

「これぞ写真館のアルバム」といえるほど、手作り感のあるウェディングアルバムです。1ページに相当数の写真を入れて作り込むのと違って、１枚１枚、丁寧に作り上げているところにこのアルバムの魅力があります。和装から洋装に切り替わっていく、そのストーリー性も感じられ、２人の情感が伝わってくるような優れた構成になっています。時にはアップで時には引きながら、季節感を入れて、２人の幸せな時間が上手く表現されています。1枚の写真作りを疎かにしていないところに、作者のアルバム作りに対する意気込みが感じられます。

■喜びの声

このたびは栄誉ある「銀賞」に選出していただき、誠にありがとうございます。
今回撮影させていただいた堀江ご夫妻、いつもお世話になっている美容師さん、お取引先の皆様、共に仕事をしている会社のみんな、そしていつも支えてくれている家族に本当に感謝です。
撮影では基本の型を大事にしながらも多くのポージングや動きのある写真、記念品などの小物、そしてその日の景色にも着目し、前撮りもお二人にとって大切な記念日として記憶に残るようなアルバム作りを目標としました。
このアルバムは15年前に自社製品の開発のために父である社長が考案し、製本選びから中枠のデザインまで行いました。またインスタントレタリングはスタッフと一緒になって絵柄を選び、和文は母直筆の書を採用しております。こうした皆のチカラとこれまでの営業・撮影・制作の中で工夫してきた積み重ねが後押しとなって、今回初めての応募でしたが、自分が代表してこのような大きな賞を受賞できたと感じております。
今後はお客様の「したいを叶える」はもちろんのこと、期待以上の写真や商品を提供できるように精進してまいります。ありがとうございました。
（制作ラボ：天野写真室　ＥＴＨＯＳ　Ｐｈｏｔｏｇｒａｐｈ）

「うれしい日」　野口博幸　Photo Studio・NOGUCHI（岡山）

データ：デジタル一眼レフ　135㎜　F2.2　1/160　自然光+ストロボ

■選評

タイトルどおり、入学のうれしさを表現した、ほのぼのとした写真です。１点にピントを合わせ、背景を効果的にぼかし、奥行き感があるなかで被写体を強調しています。パースペクティブを上手く利用して、背景にある色とりどりのクラス表示板がアクセントとなり、最後に絵があって画面を締めていますが、これも計算済みでしょう。通常、廊下の真ん中で撮影しがちですが、敢えてそうせずに左側だけを利用して遠近感を出しているところにこの写真の素晴らしさがあります。立たせ方と傾け方、つまり呼んだらこちらを振り向いたという感じで動きを持たせて撮影しているところも良く、新しいスクールフォトの在り方を示唆した作品です。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銀賞を頂き、ありがとうございます。10年ぶりの入賞がまさかの上位入賞、憧れであった帝国ホテルの表彰式に出席できることになり、心からうれしく思っております。
一歳記念から何度も撮影に来てくれているいずみちゃん、入園を控えた幼稚園での撮影で最高の笑顔を見せてくれました。
共に成長を喜び、一生の思い出作りをお手伝いする中で、ご両親も今回の受賞を大変喜んでくださいました。
撮影当日は光の状況が難しい天気で、自然光とストロボでの撮影を決め、立ち位置と差し込む光、足す光を考えてセッティングしました。後は妻がタイミング良くリードしてくれて、光のバランス良く撮影できたと思います。やはり「写真館での女性の力」は偉大ですね。この受賞に際し、写真に限らず私たち夫婦の人生の目標である川地先生ご夫妻、厳しくも温かくご指導くださる内倉先生、たくさんの刺激をくれる写真の川地 OB 会、九州情熱写真塾、PGC の仲間たち、株式会社ワントゥワン様、美しいプリントを仕上げてくださるラボネットワーク様、そして何より、当館を愛してくださるお客様に心から感謝し、これからも誠心誠意写真と向き合っていきたいと思います。最後に、、、最高のパートナーである妻に、心から「ありがとう !!」
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク（ラボ生産））

「SIMON」　児島大志郎　㈲児島写真館（鹿児島）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8　1/125　ストロボ

■選評

男性の力強さが際立つ写真です。黒バックのなかで、被写体の個性を活かし、故意にコントラストの高いライティングとし男らしさを強調しています。また、目力をより強くするためにフロントからキャッチライト用の光を入れていますが、メインライトの光の方向性を崩すことなく、自然に入れているところに作者の技量の高さを感じます。帽子に手を当てている独特なポージング、それに服の白のラインが画面にメリハリを持たせると同時にその広がりで安定感を生み出しています。カメラマンとのコンタクトが上手くできて、両者のイメージどおりに作り上げられた写真だと思います。

■喜びの声

イタリア在住の息子さんの成人式のご予約。袴姿と私服の彼らしい姿で撮影いたしました。若者らしいすました顔で力強さを表現しようと最近取り組んでいるライティングで撮影しました。被写体の志門君の精悍な顔立ちと力強い眼差し！イタリアのカメラマンの学校に通う志門君は私の思いに十分に応えてくれて、とても満足な撮影ができました。当館を紹介してくれた友人に心から感謝しております。もう一度あの帝国ホテルに行きたいと毎年思っていました。今回受賞した作品を見た時、ひょっとしたらと期待して最終審査を待ちました。11年ぶりの銀賞受賞の知らせはとても新鮮で重ねるごとに喜びが大きくなります。また、同級生吉田和正君と同じ授賞式に参加できるのも格別です。3代目を継いだ後、鹿児島 FPG の仲間と純粋に富士フイルム営業写真コンテストに入賞することを目的に切磋琢磨してまいりました。PGC でもたくさんの仲間との出逢いがあり、九州の金賞作家の先生方にもご指導いただきました。多くの出逢いの中で刺激を受けてこれまで頑張ってまいりました。今回の受賞も「まだまだ頑張れ!」とエールをもらったような気がいたします。これまでご指導くださった多くの先輩方、鹿児島 FPG、お世話になった PGC の仲間達、そして何よりも児島写真館をご愛顧くださるお客様に感謝しております。私にとって富士フイルム営業写真コンテストは1年の自分の仕事を研鑽する大切な場所です。長年運営してくださる富士フイルム様に心より感謝しております。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　九州）

銀賞

「青春」　仲嶺真弥　㈲日光写真館（沖縄）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F11　1/125　ストロボ

■選評

ソフトボールチームの集合写真ですが、全員の笑顔が印象的な写真です。顔を寄せて上手く三角形の構図のなかに収めていますが、ここまでまとめるのは至難の業。通常、こうした集合写真ではベタ光が多いのですが、この写真では横からのメインライトで一人一人の顔に立体感を出しているところに高い技術力が感じられます。また、前列の２人も、スライディングキャッチをしているかのごとく描写され、プレーの雰囲気と動きを感じさせます。この２人の扱いが、より強い安定感と動き、そして画面に変化を持たせることに成功しています。楽しさいっぱいの写真です。

■喜びの声

このたびは、栄えある「銀賞」をいただき誠にありがとうございます！夢の帝国！本当にうれしい気持ちでいっぱいです！これもモデルさんや、日頃からお世話になっている周りの方々のおかげだと心から感謝しております。この写真は隣にある高校の女子ソフト部三年生仲良しメンバーです。卒業式前にチームの思い出作りとしてスタジオに来てくれました。うちのスタジオでは女子ソフト部の撮影は毎年恒例になっており、先輩たちから後輩たちへ例年受け継がれています。今年で7年連続ご来店いただいており、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。私自身も高校時代に野球をやっていたこともあり、部活に打ち込む子供たちへの思いが特に強いのかもしれません。ソフト部の皆様は毎年来ていただいているので、少しでも違った感じの写真が撮れないかと、毎回私自身が格闘しております（笑）。その中で一番大切にしていることは彼女たちの持っている雰囲気、テンションの高さ、チームワークをそのまま表現したい！ということを心がけました。いつもながら彼女たちに元気をもらい、いつの間にかシャッターを切っていたという感じです。これからもこの伝統が受け継がれていくことを願い、私自身もその歴史を綴っていけるカメラマンとしての幸せを感じながら、思い出に残る最高の一枚を残せていけたらと思っています。最後に、いつも支えてくれている周りの方々への感謝の気持ちを忘れないように、これからも頑張っていきます。

（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　九州）

銅賞

「お気に入りの帽子と」　福田鎌一郎　㈲福田写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F2.8½　1/60　自然光+ストロボ

■選評

最適なライティングでこのお子さんらしい明るい表情と可愛いフォルムを表現した品のある写真です。赤い椅子を使用していることで、ややもすると赤が際立ってしまいがちですが、この写真ではお子さんを引き立てるためのツールとして成功しています。体を斜めに傾けて、それを支える左手、そして可愛い脚の組み方で子供らしさを表現し、さらにライティングにおいても、顔に向けた立体感のある光、帽子に向けてのラインライトなどプロとしてのテクニックが活かされています。バックに向けての光も奥行き感を出し、随所にプロならではの力量が感じられる作品です。

■喜びの声

毎年ご来店いただいているカッコいいパパとかわいいママ、そしてルカ君。ステキなご家族なのでいつもステキな写真になっちゃいます。4年前にもこちらのご家族でテーマ賞をいただきました。モデルに恵まれ感謝でいっぱいです。
今回はお気に入りの帽子がとても決まっていたので自然にいい雰囲気になってかっこいい写真がいっぱいできました。その中でもこちらはルカ君らしい1枚になったのではないかと思います。そして応募した富士フイルム営業写真コンテスト、今年も何とか入選できればとドキドキしておりましたが、恐れ多くも銅賞！身に余る光栄で恐縮しております。もう一度来たかった夢の帝国ホテル、感謝感激です。
写真館のことを一から教えてくださった内田雅之先生、いつも御指導いただいております北海道営業写真家協会の伊豆倉淳代表、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめ諸先輩、仲間の皆様、心から感謝を申し上げます。これからもこの賞に恥じないように、おごることなく一生懸命勉強していきたいと思います。最後にこのような素晴らしいコンテストを続けていただいている富士フイルムの皆様、本当にありがとうございます。また、帝国に来られるように頑張ります！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　北海道）

銅賞

「仲良しな二人」　渋谷知宏　シブヤスタジオ（秋田）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8　1/125　自然光

■選評

姉弟愛を感じさせるロケーション写真です。木漏れ日のなかでの写真はよく見かけますが、この写真では、光を見極めて最も綺麗に写る場所で撮影されていて、ロケーションライティングの好例といえるでしょう。背景が木で難しい場所ですが、木と緑が程よいバランスで構成され、画面中心部に明るい光があり、そして背景のボケ味も最適で２人が浮き出るように表現しています。手前の木に当たる光が落ちていること、それに画面に右の緑も効いていてより遠近感を感じさせます。お嬢さんを動かしていることで、画面に変化をつけており、２人を故意に画面中心に配置しなかったことも、構成上、優れている点だといえます。

■喜びの声

このたびは名誉ある銅賞をいただき、ありがとうございます。
夢のような出来事にドキドキしております。
二人は小さい頃から来てくださっている兄弟です。
いつも笑顔のお姉ちゃんと、ちょっと生意気になってきた弟くん。
そんな今の二人らしさを表現できればと、夕方のキレイな光が差し込む時間に撮影させていただきました。
今、こうして写真館で写真を撮ることができているのは、周りの方々の支えがあるからに他なりません。
どんなときでもあたたかく見守ってくださる我が師、川地先生。いつも気持ちのよいプリントをしてくださるアートカラーラボ。そして応援してくださる皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。
この受賞を励みに、これからも真摯に写真と向き合い精進していきたいと思います。
本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銅賞

「板金屋さん」　吉田和正　㈲吉田写真館（茨城）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F5.6　1/80　ストロボ

■選評

板金屋さんということですが、職場のなかで自然な目立たないライティングで被写体を強調しています。職場を表現するために、バックをぼかさず、しっかりと状況説明を入れながらも、男性をじかに座らせ“職人”を誇張しています。室内全体が蛍光灯なので、背景には黄色が出ていますが、それが職場の日常を感じさせるのに成功しているといえますし、また、満面の笑顔も素敵で、アグラの姿勢とで安心感・安定感を生み出しています。画面構成という面でも、右上がりの構図としたこと、右の金槌がアクセントとなって変化を与えています。こうした職場での撮影が、写真館の仕事としてもっと増えてくれればと思います。

■喜びの声

このたびは、運よく歴史ある富士フイルム営業写真コンテストで名誉ある銅賞をいただきまして誠にありがとうございます。
これもひとえにいつも当館をご利用してくださいますお客様、いつも楽しく仕事させてもらっているスタッフ、ご指導してくださる写真館業界の先輩方、仲間の皆さん、いつも美しいプリントに仕上げていただいていますプロカラーラボ様そして、陰で支えてくれる家族に心から感謝いたします。
この作品は、2011年全国PGCで「パパをヒーローにして、日本を元気にする本を作ろう！」と企画出版した「オヤジの教科書」からヒントをいただき、以来自分が出会った友人たちをスタジオに限らず自分が感じたその人柄や人間的な魅力を感じられるシチュエーションで撮影している一つです。一見強面で近づきづらい感じなのですが、とても優しい心の持ち主で僕ら友人たちに見せる童心のような笑顔はいつもみんなを和ませてくれています。そんな人柄、男らしさが表現できた自分にとってもお気に入りの一枚です。
このいただいた賞を励みに、これからも撮影の感性や技術力だけでなく人としての人間味を高め地域の人たちに愛される写真館づくりに努力したいと思います。このたびはありがとうございました。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銅賞

「Accordionist」　堤 賢一　日本橋髙島屋写真館（東京）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F3.5　1/125　LED

■選評

力強さが印象的な男性ポートレートです。この写真は、凝りに凝ったライティングが特長で、顔に綺麗な光を当てつつ、帽子をラインライトで浮かび上がらせ、そして反対側からもエッジライトを入れて男性の肩を自然に描写、さらにはアコーディオンにも弱い光を入れて強調しています。余分なところは落として、肝心なところだけを表現しており「これぞプロの仕事」を感じさせる１枚となっています。バックグラウンドの赤い筋状の光も画面構成上、大きなポイントになっているほか、アコーディオンにラインライトが当たっていてうっすらと全体を見せていることで、演奏している雰囲気も醸し出しており、どれをとってもプロの仕事を感じさせます。

■喜びの声

銅賞を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。そして支えてくださったスタッフの皆さん、サトックの皆様に心より感謝申し上げます。作品はホームページやパンフレットでお使いになる写真です。『ステージで演奏している臨場感を出せないか』というご要望でLEDのスポットを6灯使用しました。日頃はストロボを多用しております。光質がまるで違うLEDのスポットライトはストロボ以上に繊細なライティングを要求されます。我慢強く撮影に臨んでくださったミュージシャンには只々敬服致しております。私が音楽家を撮影する際の手法ですが、声楽家には実際に歌っていただき、奏者には楽器を奏でていただくようにしています。そうすることで私自身も音の世界に入ることができ、同じ空気感を味わうことができます。考えてみるとその音を独り占めできている贅沢な時間といえます。この方にも終始演奏を続けていただき、鍵盤に触れる指とベロー（蛇腹）の開き具合に意識を集中しシャッターを切りました。特に左手に当てるライトは固定せずにアシスタントが曲とベローの動きを予測して当ててくれました。私にとって富士フイルム営業写真コンテストは１年間の僅かな進歩を感じることができる場であるとともに数多の反省をする場となっております。やればやるほど解らないこと、できないことに遭遇します。自分自身を顧みる大切なイベントになっています。今回の撮影にあたり福森先生には多大なご教授をいただきました。私の愚作にも丁寧なご指導を賜りました。先生のお力添えなくしてこの作品は生まれることはありませんでした。心より感謝申し上げます。

（制作ラボ：㈱サトック東京事業所）

銅賞

「思い出いっぱい」　滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F5.6　1/80　ストロボ

■選評

スポーツをする少年たちの友情が充分に伝わってくる微笑ましい写真です。この写真の第一のポイントは、立体感にあるといえます。少年たちの黒のウエア、つぶれてしまってもおかしくない脚も含めてディテールが表現され、さらにバックと少年たちの距離感もあり、全てにおいて最良の立体感があります。また、カメラマンからの指示だと思いますが、右から左に流れていく動きのある構図、そして脚も故意にクロスさせて変化を与えた構成、人物配置、どれをとっても作者の高い感性が感じられる優れた作品に仕上げられています。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銅賞をいただき、誠にありがとうございます。
今回の受賞写真の少年のうち一人（向かって右端）のお客様が、毎年当写真館で撮影いただいているファミリー会員様で、小学校卒業記念に一緒にバレーボールをやっていた仲間との撮影とのご依頼でした。撮影を進めていく中で、共に練習し、同じ釜の飯を食べたであろう連帯意識が“ひしひし”とこちらに伝わり、この空気感を大事に撮影をしたうちの1枚であります。楽しかった小学校時代の良き思い出として写真を通じてお手伝いできたことは、私にとっても何よりの充実感でありました。今回の賞をいただけたのも少年たちの連帯感のおかげです。ありがとうございます。これからも私は、難しくもありまたやりがいのある営業写真に敬意を払い、生かされていることに感謝をし、またお客様に幸せを感じていただけるような写真づくりに邁進していきたいと思います。
最後に、有賀長敏先生、小林正明先生、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめとする諸先輩、ご同輩、志高きこの業界の友人たち、アートカラーラボの皆様、そして私の大事な家族、多くのご縁ある方々に感謝いたします。

ありがとうございました。
<弱いから迷いがあるから一生懸命>
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銅賞

「季節はずれ」　下宮伸一　Shimomiya photo office（長野）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

ウェディングのロケは、夕日、海岸、青空とさまざまにありますが、この写真では冬の、しかも雪の日。寒い冬ですが、二人が自然に会話している雰囲気で温かい写真に仕上げられ、とくに女性の「雪降って来ちゃったね」と言っているような語りかける優しい笑顔を捉えているところが素晴らしいといえます。ライティングも後方の下側からバックライトを入れ、傘による反射も考慮して程よく綺麗に光を作っています。また、画面構成としても左側を故意に空けていますが、これは真ん中に傘が来て左右が完全に分断されないように計算し、さらに左の格子のアクセントを入れることでバランスを取っています。光、構図、表情、三拍子揃った作品です。

■喜びの声

このたびは、銅賞という名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。
銀賞から３年ぶりの上位入賞となります。あれから、自分自身を見つめ直し、全てを立て直すために、自分に何が必要なのか、崩しては立て直し、崩しては積み重ねてきました。
そして、世の中の写真という価値観を高めるために何が必要なんだろう。そう思い、来る日も来る日も眠れない夜が続きました。
お客様の思い出に休みはない。営業時間もありません。時には深夜２時の電話に、「破水しました。生まれそうです。」
はい、すぐ行きます。と、どんな時でも寄り添う形をとってきました。
お客様は家族です。都合のいい時に手を合わせる神様ではありません。
家族だからこそ、何ができるんだろう、何がしてあげられるんだろう、私はそう思ってきました。
世界から見ても日本は素晴らしい。
営業写真＝お客様に寄り添う写真。
世界はアーティスト的な合成写真の反面、日本は本来あるべき、その人の思い出を残す写真が受け継がれています。
私たちは、お客様の思い出で成り立っています。
やっと自分の気持ち、業界との方向性が一つになってきた、そう感じた矢先の銅賞の朗報。本当に涙が止まりませんでした。
すこしずつ、業界や写真の価値感が良い方向へと進んでいっていると感じております。
まだまだ、目指すところが見えてきた程度ではございますが、支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。
これからもより一層、歴史、文化そして思い出を繋いでいきたいと思います。
（制作ラボ：㈱アオバカラー）

銅賞

「Love Together」　田口敏生　カメラの東光堂 撮影部（フォトスタジオ MAG）（大阪）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　24㎜-120㎜　アルバム

■選評

ウエディングアルバムですが、さまざまな場所で２人を強調して表現している優れた作品です。メジャーな場所での撮影となると、ややもするとその背景に負けてしまいますが、このアルバムでは何気ない場所を効果的に演出しながら、主役の２人を引き立たせて撮影しています。タングステン光でアンバー系の光のもとで撮影したり、普通の道での撮影、またモノクロ写真を効果的に入れるなど、ストーリー性もあり、さらに閑話休題のようなページもあったりで、とにかく飽きさせないページ構成となっています。計算のうえで作られたプロならではのアルバムといえるでしょう。

■喜びの声

撮影地は新婦の故郷香川県。普段は大阪で暮らしているお二人です。
撮影日は生憎の曇り空、そして雨。
お二人の祝福の日において、少なからず良いコンディションの日ではありませんでしたが、曇りなら曇り、雨なら雨で良いと感じられる不思議な地でした。
静まり返った山々には霧が帯を巻き、誰もいない小さな海岸線には波音だけが残る、細い路地には古民家が軒を連ね、透き通った美しい情景が広がっており、このような素晴らしい地で育った新婦の幼少期が想像できるようでした。また、この地での撮影を選んだ新郎の優しさもうかがえます。
今にも雨が降りそうな天候の中、撮影は進み、海岸線を裸足で駆け抜けてもらったり、トンネルを抜け、さらに崖を登り、ついに雨。サバイバルともいえる撮影でしたが、お二人を含め同年代の撮影チームにとって、撮影の使命から楽しさに変わるのにそれほど時間はかかりませんでした。
驚くべきは最後に案内された新婦のご実家。おじい様の写真を抱いたおばあ様を囲んでのハプニングショット。写真の中のおじい様にもご報告。
私は流れに沿ったまま、自然と湧き出る力でシャッターを押させてもらい、いつのまにか感無量で、お二人に負けないくらい至福の時間でした。
最後になりましたが、今回初めての応募でまさかの銅賞を受賞させていただいたことを、心より感謝いたします。
新郎新婦をはじめ撮影チームのメンバー、そして、いつも無理難題を聞いていただいている富士フイルムイメージングシステムズ（株）の皆様ありがとうございます。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　大阪）

銅賞

「もうすぐ」　吉田弦矢　㈱イナバ写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F5.6　1/200　ストロボ

■選評

ボディーペインティングしているようなマタニティーの写真が多かったなかで、マタニティードレスを着るわけでもなく、お腹を出すわけでもなく、普段着でのマタニティーのうれしさを表現した微笑ましい写真といえます。奥様のおしゃれな写真がポイントで、白の部分で妊婦を表現し、さらにご主人を後ろに立たせてその白を強調させているところに作者の表現意図が見えます。ご主人の体のラインも黒バックのなかでディテールが出ていますし、頭をカットしたトリミングも絶妙です。生まれてくる赤ちゃんに対するご両親の思いが伝わってくる上品な写真です。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテスト銅賞をいただきありがとうございます。

今回の受賞作品は初めて撮影させていただいたご夫婦のマタニティー。

ご来店されたときから「とてもオシャレで絵になるご夫婦だな～」と思っていましたがパパとママの暖か～い眼差しが集まったステキな瞬間をうまく捉えることができたお気に入りの自信作！！

本当にうれしい上位入賞となりました！！

お客様はもちろんのこと、普段から支えてくれる家族、スタッフ、ラボの皆様、そして日頃から切磋琢磨しているPGCの仲間、日頃からご指導くださる先輩方、福森塾の皆様に心より感謝しています。

これからも一組一組のお客様と向き合い、自然な一枚を撮り続けていける写真館として精進していきたいと思います。

（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　九州）

銅賞

「絵画のように」　河村 賢　㈱美光写苑 KKR ホテル熊本写真室（熊本）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F4.5　1/60　ストロボ

■選評

背景がコンクリート打ちっ放しの無骨なイメージのなかでの撮影ですが、背景が無機質でその前に生身の女性という構成のなかで、こちらを凝視しながら笑顔を作っていてタイトルどおりのイメージが伝わってきます。アンバー系の印象に残る色調と、笑顔のなかの目線の鋭さが際立つ写真です。顔の傾け方、肘を張ったフォルム、トリミングなども画面構成上、効果的で、魅力的な写真になっています。女性を表現するには硬めの光ですが、コントラストが高いからこそ目線が強調され、まさに「絵画のように」表現されているところにこの写真の特長があります。

■喜びの声

このたびは栄えある銅賞をいただき、誠にありがとうございます。銅賞受賞の通知が来た時は全く信じられず「え？」という言葉が出てしまいました。ようやく実感できたのも今、この文章を考えている最中で喜びに浸っております。

モデルのお客様はKKRホテル熊本にてご婚礼をあげられた方で前撮りをされたのですが、新郎新婦様ともに笑顔の絶えないお二人で楽しい撮影になりました。撮影の合間、少しの間待っていてもらっている時に、ふと新婦様を見ると少し柔らかい表情で待っているその姿に心を惹かれ、新婦様に「そのまま動かないで視線だけこちらにください」と言ってお撮りした1枚になります。諸先輩方によく言われたのが「被写体から目を離すな！」でしたのでわずかながらではありますが実践できているのではないかと思っております。最後になりましたが、優しく、時には厳しくご指導いただいた諸先輩方、一緒に切磋琢磨し撮影している写真室メンバー、お客様、心より感謝申し上げます。これからも「お客様が喜ぶ写真」を常に念頭において撮影に挑み、初心を忘れず、おごることなく勉強していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ九州ラボ）

銅賞

「フレンズ」　内田尚吾　㈲ウチダ写真舘（大分）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

卒園のうれしさが伝わってくる楽しい写真です。７人という人数のお子さんの撮影となると、親御さんのことを考慮し、それぞれを同じ分量で揃えたいと思い、横一列で表現します。この写真では横一列ながらもカメラマンの豊かな感性で楽しさを助長するように作り上げています。全員を笑顔にさせていること、故意に中心に寄せていること、脚の動きもあり、それらを誘導していると思いますが、実に自然にリズム良くまとまっています。赤い証書もアクセントとなり、それぞれ持ち方も個性的。カメラマンとの会話が聞こえてきそうな微笑ましい写真です。

■喜びの声

このたびは、銅賞をいただき誠にありがとうございます！
この富士フイルム営業写真コンテストの上位入賞は小生にとって一つの目標であり、一つステップを上がれたことを家内とともに喜んでおります。
当館を支えていただいている地元佐伯のお客様、いつもそばで支えてくれる家内をはじめスタッフ、そして九州情熱写真塾の内倉主宰をはじめメンバーの方、PGC の仲間、修行先の別府の木村写真場の木村裕次社長及びスタッフの皆様、いつもご指導いただいております大分県写真文化協会の皆様、小生のムチャぶりに対応してくれるプロカラーラボ九州の皆様、挙げるときりがありませんが、本当に周りのすべての皆様のパワーをいただけた結果だと改めて感じております。
この賞に甘んじることなく常にベストを尽くすという意識を胸に写真道に邁進していく覚悟です！そして親父が20年前に掲げたＵ・Ｆ・Ｒ（Uchida Family Relaxation）をテーマに掲げ、いつかは内田ワールドを作り上げ、写真を通してお客様に愛と感動を伝えられる存在になりたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします！
最後にこの写真がこの子たちの未来の“たからもの”になることを願って・・・・。合掌。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ九州ラボ）

審査員特別賞

「Wedding Story」　藤沢 信　㈱たむら ベルクラシック大阪写真室（大阪）

アルバム

■選評

大阪・京都・神戸……とさまざまな場所で撮影されたウエディングアルバムです。広角と望遠を駆使した写真や、スローシャッターで背景をぼかしたり、次々と展開されるストーリーなど変化に富んだ内容で次のページをめくってみたくなるようなアルバムに仕上げられています。また、１枚写真としても非常に印象に残るシチュエーションで撮影しています。このアルバムの優れた点は、時間をかけながら前撮りして２人のストーリーを作っていて、その思い出作りのために、行った先々でそれぞれの表情をうまく捉えています。１枚１枚を丁寧に作り込んでいる点に作者の力量を感じます。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストで審査員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。
入賞の知らせを聞いたとき、真っ先に撮影させていただいたお客様に知らせたところ私以上に驚き喜んでくれました。
それがとても嬉しかったです。
このアルバムは京都か神戸のロケーションで３日間に分けて撮影を行いました。
このようなスケジュールの撮影は初めてで、まずどのようなルートで撮影スポットを回れば良いのかスタッフと相談しながら撮影の計画を立てました。どんな写真を撮れば喜んでくれるかなと下見や準備をしながら楽しみに撮影を待ち望んでおりました。
一緒に撮影に同行された着物の着付けの先生や美容スタッフさん、アシスタントカメラマンの力がなければ無事に撮影を終えることはまず不可能でした。
スタッフ全員が「おめでとう」の気持ちを込めて、新郎新婦様のために一生懸命自分たちの仕事をした結果、喜んでいただき本当に何よりです。
これからもお世話になっている皆様へ感謝の気持を忘れず日々、精進していきたいと思います。
本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク（ラボ生産））

優秀賞

「男の戦い～中３の夏～」中村美緒　㈲ナカムラ写真館（岩手）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F4.0　1/1250　ストロボ+自然光

「中田家物語」佐直和春　㈲佐直写真館（山形）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　ストロボ、タングステン　アルバム

「七五三」石川格也
㈱光潮社 伊勢丹写真室 新宿店アネックス（東京）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8.0　1/125
ストロボ

「白シャツの family」清田智勝
㈲セイタ写真館（神奈川）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F5.6　1/60　ストロボ

「絵画」柳谷紗希
㈱デコルテ studioTVB 神戸ハーバーランド店（兵庫）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F1.6　1/125

優秀賞

「ウェディング」湯本和子
ユモトカラースタジオ（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F8.1　1/60
ストロボ

「シンデレラ ドリーム」谷崎栄二
㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F3.5
1/125　タングステン

「お兄ちゃんの入学記念」安部宣秀
安部写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8.0
1/125　ストロボ

「新なる出発」尾崎友久　独立軒写場（宮崎）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F18　1/60　自然光

「ハタチの輝き」染矢博幸　写真のそめや（大分）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F8.0　1/125
ストロボ

テーマ写真　大人ポートレート写真

「Baby coming soon」

春山泰司　ライフスタジオ 新松戸（千葉）

「アラウンド・セブンティー」

矢吹周也　㈲矢吹写真館（北海道）

「友情」

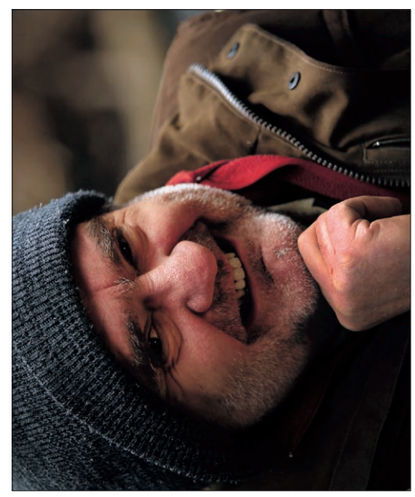
岩城 丈

㈱光翔社 伊勢丹写真室 立川店（東京）

「スマイル」

小林かずとも

クリエイティブスタジオ 小林写真館（千葉）



「職人づくり一筋50年」

元藤將吾　みんなの写真スタジオフォトクリ（千葉）

「家具を創る手」

山東洞史　㈲ながおかスタジオ（京都）

「町の人気者」

富川 哲　富川スタジオ（愛知）

「文化祭」

島瀬 航　シマセ写真館（富山）

「書道家 N氏」

本多 実　フォトガーデン・ホンダ（長野）

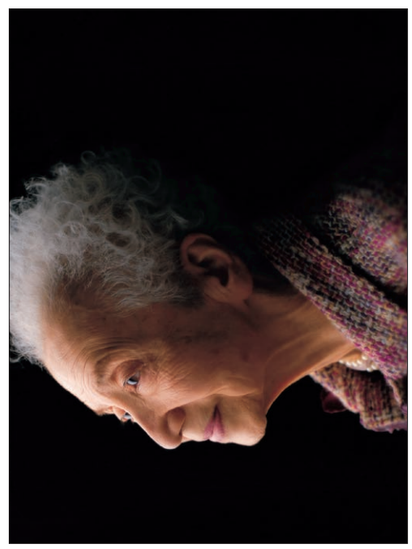
「アラフォーコギタコスメ」

佐藤 俊　PHOTO STORY Very Very Very（新潟）

テーマ写真　大人ポートレート写真

「眼鏡の彼方～卒寿記念～」

桑島紘理　㈱桑島写真スタジオ（大阪）



「帽子の男」

神村正己　いぬづか写真室
メリケンパークオリエンタルホテル写真室（兵庫）

「Black」

米澤亮太　キングフォトスタジオ（兵庫）

「モノクロフォト」

大藤哲己　モダンフォト（広島）

「ベストフレンズ」

大塚雅晴　いぬづか写真室（兵庫）

「若き僧の肖像」

吉田茂隆　吉田茂隆写真館（宮崎）

「K氏のシリアフォト」

吉田伸邦　吉田写真館（熊本）

「Bossを囲んで～」

岡　利幸　はしざき写真館（福岡）

「Beret」

鶴田一雄　㈱杉田写真館（福岡）

「cool eyes」

石立素久　イシダテ写真場（徳島）

「大家族って楽しいネ!!」

岡村マサル　岡村写真工房セピア（北海道）

「あと少し～」

佐藤 喬　㈲フォトスタジオさとう（北海道）

「おじいちゃん夫婦」

石川辻亮　江陽写真室（宮城）

「これ笑い」

渡辺昌彦　㈲ワタナベ写真館（福島）

「家族が増えるね」

渡辺田佳　㈱田村写真館（栃木）

「幸せな時間」

中野修平　中野写真館（神奈川）

「3人」

南谷大輔　㈲カトーフォトスタジオ（愛知）

「百寿記念」

大町利夫　大町写真館（群馬）

「初宮参り」

森 徹　小平神明宮写真室・森写真館（東京）

「1one 2two 3three」

小町圭嘉　スタジオモーツァルト（東京）

アルバム

テーマ賞 家族写真

「ハートのコーラ」

野田エイタロウ　小さな写真館ABCスタジオ（福岡）

「ハートのコーラ」

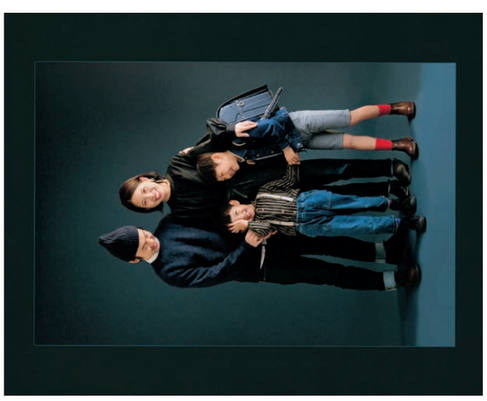
滝 義史　㈲写真館かつみ（愛知）

「ムードで元気」

東 慶国　ヒカル写真場（熊本）

「楽しくねー」

中三恵美　Studio View（広島）



「きっかけはただいまのあいさつでした。」

三枝素直　㈲写真館の三枝（三重）

アルバム

「休日の午後」

池上公明　㈱山田写真館（熊本）

「Family」

高橋 元　Family Studio Genyo（福岡）

「清廉フォトコーナー」

太田順一　すみれ写真館（佐賀）

「福屋フォトコーナー」

塩屋大輔　写真のシオヤ（鹿児島）

「俺の漫画物語」

秋津忠博　秋津写真館（鹿児島）

アルバム

「僕はピアニスト」

八幡峰代子　八光スタジオ（岩手）

「大好きなお兄ちゃんと」

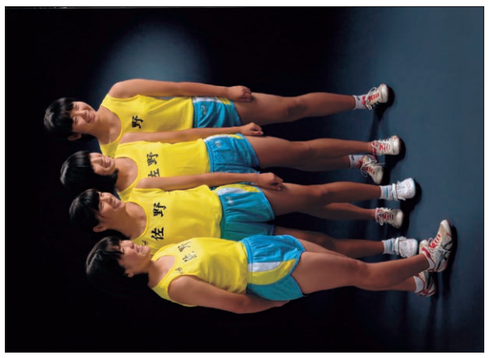
渡辺和志　㈱白いアトリエ（福島）

「まっすぐ」

金田慎　美正写真館（福島）

「夏の日」

太田奈々絵　㈲太田写真館（群馬）



「アッチ向いてホイ!!」

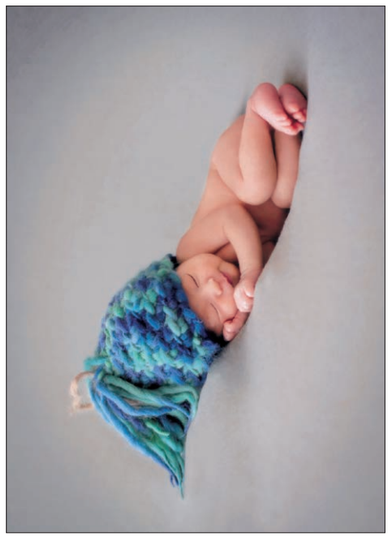
大井大　フォトグラフィック大井（神奈川）

「中学生」

長谷川和男　アニバーサリー㈱長谷川写真館（新潟）

「大切な宝物」

坂巻友美　きれい写真館（長野）



「ねーにー」

青木太　アオキ写真館（静岡）

「キュー。」

田内光裕　㈲清水写真館（静岡）

「Happy Birthday」

木田陽子　㈲宮田写真館（愛知）

「バスケットガールズ」

菅里直樹　ちどり写真館（兵庫）

「お兄ちゃんお姉ちゃんに負けないぞ」

長谷川久代　㈱フォトスタジオ ミミズ（大阪）

「1歳」

栗原一雄　クリハラ写真館（山口）

「こっち、世界一く!!」

安達 亮　㈲ I WILL 土居写場（広島）

「ねっちゃれって」

島田健太郎　スミレ写真館（奈良）

「少女の瞳」

重松洋介　㈱写真のトクダ（福岡）

「夏の日の少女」

永見昭一　ナガミ写真館（山口）

「あこがれのトウシューズ」

栗原美由樹　クリハラ写真館（山口）

「あそびのポーズ」

上野優子　上野写真館（徳島）

「こどもたち」

矢上敬一　矢上写真館 都城店（宮崎）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「のあちゃん祝・七五三」
須藤一朗　ストウ写真館（青森）

「Best Friends」
幕田浩和　㈲まくたスタジオ（宮城）

「あかりちゃん」
岸村和広　㈲あんざい写真館（福島）

「1年生になったら」
吉田雅士　よしだ写真館（北海道）

「笑顔で卒業」
高寺洋雄　コマスタジオ（千葉）

「新しい制服」
田中秀幸　㈲日の出写真商会（東京）

「卒業の日」
高野　優　㈱光潮社 伊勢丹写真室新宿本店（東京）

「双子姉妹の入学」
菅野太一郎　菅野写真館（神奈川）

「うれしい三歳」
清田知子　㈲セイタ写真館（神奈川）

「オシャレ7・5・3」
横山　正　㈱横山スタジオ（福井）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「それぞれの春」

宮澤豊也　㈲宮沢写真館（長野）

「卒業記念」

長畑豊也　㈲ハーハタ写真館（福岡）

「合格・家族の喜び」

伊藤　譲　㈱佐藤写真（愛知）

「いちかちゃん」

横田昭洪　A＊M Photo（福岡）

「成人式後」

河野　学　あゆ写真館（福岡）

「バスケも卒業」

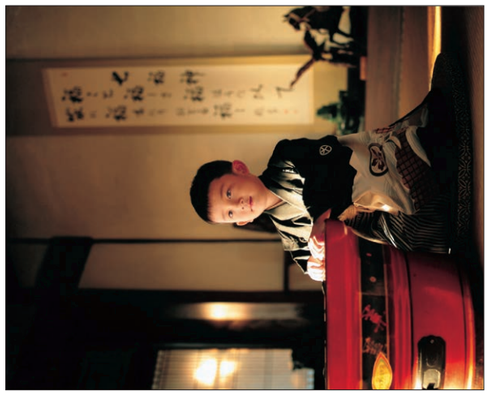
東　信博　しげまつ写真館（大分）

「かわいいでしょー」

緒方健一郎　写真のおかた（鹿児島）

「五歳のまなざし」

福永隆志　福永写真館（鹿児島）



「お姉ちゃんと一緒に」

平田義弘　㈲平田写真館（広島）

「今日から制服！」

山口和哉　山口写真館（愛媛）

テーマ賞 成人・振袖、婚礼写真

「舞さんの成人記念」
ウジイ ユタカ　ウジイフォトスタイル（山形）

「孫と一緒」
齊藤 昇　綾子写真館（山形）

「和」
片山晴夫　㈲シンガイ写真館（栃木）

「雅」
ヤナセ セイジロー　ヤナセ写真館（埼玉）

「Venus」
山崎義一　㈱佐藤写真（東京）

「祝いのよろこび」
重山寛伸　東京大神宮マツヤサロン写真室（東京）

「20才の記念に好きなギターと」
寺田太三
㈱光潮社伊勢丹写真室新宿店アネックス（東京）

「花嫁」
橋本真弓　㈱佐藤写真（東京）

「白いショール」
長谷川 隆　㈱長谷川写真館（新潟）

「はたち」
松山真彦　松山写真㈱（静岡）

テーマ賞 成人・振袖、婚礼写真

「麗しき姿」

亀田俊太郎　フジノ写真館 studio Fourth（和歌山）

「ありがとう！お母さん」

赤井大司　あかい写真館（和歌山）

「幸せのほほえみ」

吉原忠　スタジオ・ハート（広島）

「情熱と沈黙の間に」

廣子盛亮　コマエ写場（広島）

「幸せの予感」

廣田備一　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

「はたちの記念に」

多々良竜　K-ya 写真工房（福岡）

「未来の成人写真」

野田智子　小さな写真館ABCスタジオ（福岡）

「晴れの日に」

末次克幸　吉井スタジオ（福岡）

「二十歳の記念」

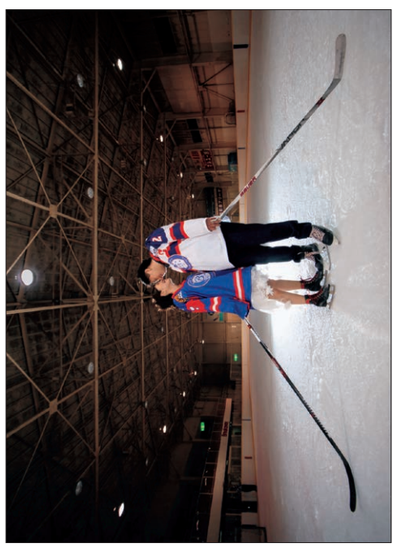
田中克慶　㈲田中写真館（鹿児島）

「平成20年」

橋園正恵　めぐみ写真館（鹿児島）

「Happy Wedding」

蛯名清悟　エビナスタジオ（青森）



「Happy Wedding」

濱田剛　スタジオフォトス（北海道）

「幸せいっぱい」

富田直紀　濃茶シャローム教会（北海道）

「幸せの瞬間」

濱藤明　㈱スタジオ・サイトー（山形）

「Happy Wedding」

安藤健太　安藤写真館（千葉）

「和」

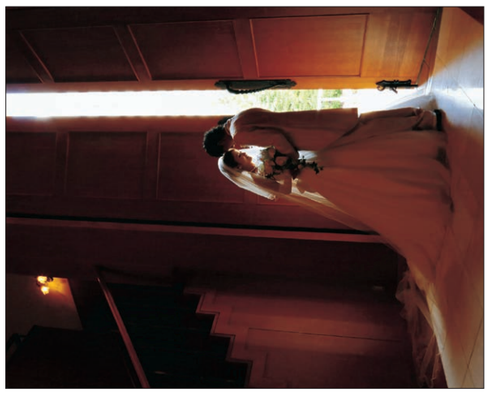
番場翔子　㈱佐藤写真（東京）

「銀座の花嫁」

岡本良太　コマエ写場 フォーカスワン銀座（東京）

「未来への誓い」

小松崎誠　㈱佐藤写真（山梨）



「Bride」

町田雅理　innocently東京 ㈱東光写苑（東京）

テーマ賞 ウェディングフォト（ロケーション・スナップ）

「白ドレス」
大屋岩人　DAIOKU写真スタジオ（三重）

「CHU」
樋上孝典　GLの森 ユウベルフォトスタジオ（広島）

「2人着物で…」
山下顕優　スタジオクレアーレ（京都）

「古民家」
東埜正信　㈲スタジオエース（徳島）

アルバム

「HAPPY STORY」
西森 淳　グラフ（愛媛）

「誓い」
因幡明弘　㈱イナバ写真館（福岡）

「Future」
内尾博徳　内尾写心感（大分）

「花嫁」
篠原隆浩　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

「光画『教堂の聖母』」
田中貴尋　田中写真館（長崎）

「行きましょうか!!」
松本隆夫　写真の七光（熊本）

2017 富士フイルム営業写真コンテスト
金賞作家を訪ねて……福岡県　はこざき写真館　荒木 敬介さん

「私にとっての師匠はお客様です」その姿勢が金賞に結実

「富士フイルム営業写真コンテストは、ずっと目標でした。30 年前、私の人生の師匠であるおざき写真館・小崎弘之さんに出会い『これからは業界のために動くことと、写真技術面では富士フイルム営業写真コンテストの金賞を目指しなさい』との教えを受け、その通りに動いてきました。ですが、当初の5 年間は全く入賞できずにいて、6 年目からこれまでずっと入賞し続け、そして今年、念願であった金賞を受賞することができ、大きな目標を達成することができました」と語るのは、2017 富士フイルム営業写真コンテスト金賞作家の荒木敬介さん（福岡県福岡市・はこざき写真館）です。

25 年間、一度も途切れることなく入賞を続け、途中、銅賞を2 回、銀賞を 1 回受賞していることは、それだけ高い技術レベルを維持していることになります。その原動力はどこにあったのでしょうか……。金賞に至るまでの足跡を追ってみました。

仲間と切磋琢磨、大きな存在に

はこざき写真館の創業は明治34 年で、荒木さんは四代目。当初は、店を継ぐ気は全くなかったそうで、先代（お父様）から「写真館を継がなくても良いから、写真館に生まれたのだから忙しいときは手伝ってくれ」と言われ、それは納得してスタジオ撮影を手伝っていたそうです。写真専門学校を卒業しましたが、それでも継ぐ気にはなれず、卒業後も手伝い感覚で店に立っていたとのことです。

ただ、お客様と接しているうちに「写真をお渡しして喜んでいただいたときに、もっともっと喜んでもらいたい。それにはやはり良い写真を作らなければならない」と感じ始めました。どんな写真を提供すれば良いのか。

荒木 敬介さんとご家族

当時、カジュアルフォトがブームだったことで、35㎜一眼レフで撮ってみたそうですが、たった 1 人で悪戦苦闘していたことで限界が生じました。そんな時、前出のFF 会会長の小崎さん（フロンティアファクター会会長）と出会い、同じ世代の仲間も増え、PGC（パイオニア・グリーン・サークル）入会でさらにその輪が広がり「仲間と切磋琢磨しながら勉強して良い写真を作り、最終的にお客様に喜んでもらいたい」という意識がさらに増幅していきました。「師匠の小崎さんや、仲間との出会いがなければ今の自分はないと思います。それくらい仲間の存在は大きいですね」と荒木さん。

お客様が認めてくれる写真を目指して

では、どのように勉強していったのでしょうか。荒木さん自身、これまで技術的な面での勉強会等、グループには属していませんでした。したがって、技術の錬磨はすべて独学でした。営業写真はこうでなくてはならない、といった既成概念も存在せず、すべては「お客様が認めてくれる写真」が基本になっていました。荒木さん曰く「私にとっての技術的な師匠はお客様です」と。お客様が満足する写真をどう作り上げていくかに腐心し続けてきたわけです。

具体的には、PGC の仲間の写真を見て、共感する部分があったらそれを試してみたり、あるいはファッション誌を見て同じような表現をしたり……「お客様が買ってくれる写真」を自分なりに研究していったそうです。

「荒木調」写真の誕生 それがお客様に認められ……

その研究の成果が、写真館業界内でも知る人ぞ知る「荒木調」の写真になって表れました。この「荒木調」というのは、今回の金賞作品のように、タングステン調の、温かみのある、いわゆるアンバー系の写真です。ネガの時代からこだわっている表現で、当時、プルーフで多ショットをしたいと思い、一眼レフ手持ちでタングステン光での撮影も行い、自分なりに研究していきました。その頃、仲間の 1 人から「写真館で売れそうにない写真を撮ってみよう」という話があって、ロケーションでスナックなどの店舗内や、夜の街灯で撮ってみたりと、その場の光で撮ってみることにも挑戦し、その結果、タングステン光での撮影も、そのままの光で表現してみたら、それがお客様に高い評価を得たのです。

はこざき写真館は成人写真がメインですが、以前はストロボ光撮影が主でした。そこにこのタングステンの表現が加わり、バリエーションが増え、しかもお客様の受けも良く、はこざき写真館ファンが増えていきました。

アンバー系の写真はここ最近、一般的にもよく見られる写真ですが、荒木さんの写真は、単純にアンバー系というわけではなく、色調、風合いなど独自の世界で表現されていて、その真似は難しいといえます。「私自身も人から教わっていないし、試行錯誤を繰り返して作り上げたもので、教えるにしてもそのカリキュラムがないので困ってしまいます。私の感覚でしかないので……」と語るように、検証を積み重ねて独特の荒木調を構築してきたわけです。

こうして、はこざき写真館ならではの作風ができあがり、それに共感するお客様が口コミで次のお客様を呼ぶという、写真館にとって理想的ともいえるかたちとなっていきました。いまから 7 ～8 年前、荒木さんが50 歳の頃、周囲には衣裳店や子供写真館等が林立し、この先どうなるのか、不安になったそうですが、独自の作風で個性的な写真館になり、その価値観に同調するお客様が増えたことで、そうした不安は払拭されたそうです。

ただ、写真館として今後のことを考えると、新しい時代が到来していることを考慮し、構想に構想を重ね、新店舗での展開を模索。結果、6 年前に現在の店舗を作り上げました。右の写真のように「異人館」をイメージしたアンティーク調のおしゃれな店舗です。

今から6 年前に「異人館」をイメージした新スタジオを設立

写真館における三角形の定義、それを実践

荒木さんは駆け出しの頃、小崎さんから「三角形の定義」ということを教わりました。それは、三角形のそれぞれの辺が、人作り、店作り、写真作りでそれを各々に伸ばしていくことが重要だと。荒木さんは「私自身、若い頃からお客様への愛想は良く、人作りはそれなりにできていましたが写真はそこそこ、店もボロボロ。少しずつ技術が向上していって写真作りという辺は伸びていきました。そしたら今度は店が合わなくなり、店を改装するなどで店作りの辺を伸ばし、その三角形は徐々に大きくなっていったように思います。教え通り、三角形の定義を実践してきました」と話します。その三角形は、それぞれの辺がはこざき写真館ならではの独自のもので、それを受け入れてくれるお客様がファンとして増え続けているのです。

店内は全てアンティーク調でお洒落に統一

金賞を受賞した今、今後について尋ねると「写真的には『絵』のような作品を作り上げたいと思っています。絵というのは、自分の感性ですので、それをお客様に伝えることができるか、にトライしていきたいと思っています」と意欲的です。

店の今後という点でも、ご子息の達弥さんが大きな戦力として加わったことで、これからが楽しみです。今回の金賞受賞を糧に、技術的にも、ファンに愛される店作りという面でも、今後もますます発展し続けていきます。

卓越した技術と感性で、心を揺さぶられる感動のある作品が一堂に

2017富士フイルム営業写真コンテスト表彰式、盛大に開催

開催から半世紀が経過し、数々の感動と営業写真の潮流を生み出してきた富士フイルム営業写真コンテスト……。

富士フイルムイメージングシステムズ㈱は9月13日、東京・日比谷の帝国ホテルにて、2017富士フイルム営業写真コンテストの表彰式を、上位入賞者ならびに入賞作品制作ラボを招いて盛大に開催いたしました。

表彰式に先立ち、富士フイルム㈱の助野社長が挨拶に立ち「2017年富士フイルム営業写真コンテスト、上位入賞、誠におめでとうございます。日頃から良い写真を撮り、良い作品を創り、感性・技術をいかに向上するかということに取り組まれた意欲の結晶が、まさにここに表れたものと心から敬意を表します。富士フイルム営業写真コンテストは今年で54回目となります。今年も9,800点を超えるたくさんのご応募をいただきました。そのなかから選ばれた入賞作品を見させていただきましたが、非常にレベルの高い作品が多く、心を揺さぶられる感動がありました。そして、皆様が撮る写真には温かみがあり、奥行きが深く、プロにしか撮れない極上の写真であり、地域のお客様のかけがえのない思い出作りに欠かせない存在になっていることを感じました。プロならではの卓越した技術と感性を発揮して撮影に取り組まれた成果だと感じます」と上位入賞者の努力に敬意を表しました。

また、写真館のプリントに関して「写真館の豊かな色調・階調・表現力・立体感・奥行き感を表現するには富士フイルムが長年培ってきた高画質の銀塩プリントがベストであると自負しています。また、今年新たにデジタルカメラ『GFX』を発売し、入力から出力まで一貫した高品質の商品をラインアップすることで皆様のお仕事に貢献できるようにメーカーとして技術の進捗に努力してまいります」と話しました。

さらに、富士フイルムとして写真の価値を伝える活動について「富士フイルムは1934年の創業以来『写真文化』の普及・発展に向けて取り組んでまいりました。写真として残し、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動を伝えることで『写真文化』を守り育んでいくことは富士フイルムの使命であると考えています。写真として残す営業写真の文化を継承していくためにも、今後とも富士フイルム営業写真コンテストに応募いただき、盛り上げていただくようお願い申し上げると同時に、お客様と直接接する窓口の写真館様には、より多くの人々に感動と喜びを与え、いつまでもお客様に親しまれる写真を撮り続けていかれることをご期待申し上げまして、お祝いの挨拶とします」と締めくくりました。

富士フイルム株式会社
代表取締役社長・COO
助野 健児

富士フイルム株式会社
イメージング事業部長
岩﨑 哲也

富士フイルム イメージングシステムズ㈱
代表取締役社長・執行役員
西村 亨

この後、富士フイルムイメージングシステムズ㈱の西村社長が、コンテストの経過報告として「今回は全国の営業写真家の皆様3,059人の方々から、9,818点のご応募をいただきました。厳正な審査の結果、金賞1名、銀賞5名、銅賞10名、審査員特別賞1名、優秀賞10名、テーマ賞120名、合計147名が入賞されました。

栄えある金賞には福岡県のはこざき写真館・荒木敬介様が受賞されました。過去54回のうち、福岡県からは5人目の金賞受賞となります。おめでとうございます」と今回のコンテストの傾向について触れたのち、審査員による講評や出展傾向などについて報告しました。（詳細は2ページ参照）

この後「お客様のニーズに対応しながらも、プロにしか撮れない、何十年後にも変わらない価値を持った写真を提供している姿が目に浮かんできます。引き続きお客様に感動を与える写真を撮り続けていただき、来年度も意欲あふれる作品の応募を期待します」と話しました。

30年間、金賞を目指し続け、それが結実

この後、表彰式に移り、金賞の荒木敬介さん（福岡県・はこざき写真館）をはじめ、上位入賞者17名と制作ラボに対して、助野社長から賞状、賞金、記念品が手渡されました。受賞者を代表して金賞の荒木さんは「まず、受賞者を代表して、このような表彰式を行っていただいた富士フイルムに深く感謝いたします。私自身、30年間、この富士フイルム営業写真コンテストの金賞を目指して頑張ってきました。30年前、同じ福岡県の小崎弘之さんから『業界のために動きなさい、そして富士フイルム営業写真コンテストの金賞を目指しなさい』といわれ、そのとおりに頑張ってまいりました。最初の5年間は箸にも棒にもかかりませんでした。6年目から25年間、ずっと入賞させていただきましたが、賞をいただくたびに悩み続けてきました。というのも、これ以上どうすれば上位に行けるのか、その苦しみを30年間味わってきました。今回、金賞をいただき、周りの皆さんは『万歳』と喜んでくれましたが、私自身は、うれしいのですがとても複雑な思いでした。30年間応募し続けて、これで富士フイルム営業写真コンテストは卒業か、という思いが来たときに、私は次から何を目指して頑張っていけばよいのか、という切ない思いがありまして、うれしいのだけれども寂しい思いをしました。この作品は、七五三から来ていただいているお客様で、成人式記念で私服でも撮ったものです。とても天真爛漫なお嬢さんですので、その個性を出してポージングやライティングを駆使して撮らせてもらいました。私はPGC（パイオニア・グリーン・サークル）には入っていましたが、一般の写真の勉強塾とかには入っていなかったので、富士フイルム営業写真コンテスト特集号は、私の教科書でした。これからもまだまだ頑張っていこうと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました」と挨拶しました。

金賞の喜びを語る荒木さん

最後に全員での記念写真撮影、そして受賞パーティーが開催されました。冒頭に富士フイルム株式会社の岩﨑フォトイメージング事業部長が「上位入賞、誠におめでとうございます。このコンテストは今回、ご列席の写真館の皆様、ラボの方々の日頃の精進の成果が表れたものと思います。作品を見させていただきましたが、プロならではの工夫・技術、被写体に対する洞察力、さらには一点一点感動と喜びにあふれた作品ばかりでした。地域に愛される写真館、それをサポートするラボ、そして私たち富士フイルムとで業界の発展に寄与できればと思っています。今後ともよろしくお願いいたします」と挨拶したあと、乾杯の発声で開宴。宴の途中、恒例となった、受賞者全員による1分間スピーチも行われ、受賞作品のお客様のこと、撮影法、そして受賞の喜び、家族・スタッフへの感謝の言葉が述べられ、感動あり、笑いありの和やかな雰囲気のなか、午後7時過ぎに全てのスケジュールが終了しました。

助野社長から表彰を受ける荒木さん

受賞者とそのご家族の皆さん

2017富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展のご案内

東京展
2017年12月8日（金）～14日（木）
10：00～19：00（最終日は16：00まで）
富士フイルムフォトサロン／東京
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 フジフイルム スクエア 1F
TEL.（03）6271-3351

大阪展
2018年1月26日（金）～2月1日（木）
10：00～19：00（最終日は14：00まで）※1月28日（日）はビル点検のため休館
富士フイルムフォトサロン／大阪
〒541-0053 大阪市中央区本町2-5-7 メットライフ本町スクエア（旧大阪丸紅ビル）1F
TEL.（06）6205-8000

福岡展
2018年2月23日（金）～28日（水）
10：00～18：30
富士フイルムフォトサロン／福岡
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルムビル 1F
TEL.（092）289-7307

名古屋展
2018年3月9日（金）～15日（木）
10：00～18：00（最終日は14：00まで）
富士フイルムフォトサロン／名古屋
〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-17 富士フイルム名古屋ビル 1F
TEL.（052）204-0830

仙台展
2018年3月29日（木）～4月24日（火）
10：00～17：30　※水・土・日・祝は休館
富士フイルムフォトサロン／仙台
〒983-0869 仙台市宮城野区鉄砲町西 1-14 富士フイルム 仙台ビル 1F
TEL.（022）292-0577

札幌展
2018年5月11日（金）～16日（水）
10：00～18：00
富士フイルムフォトサロン／札幌
〒060-0042 札幌市中央区大通西6-1 富士フイルム札幌ビル 1F
TEL.（011）241-7366

2017富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品は富士フイルムホームページでもご覧になれます。
http://fujifilm.jp/promotion/shashinkan/contest/index.html

※本書は本コンテストに応募いただいた写真館様に、お届けさせていただきます。
※本書に掲載の写真の著作権は、各撮影者に帰属します。無断使用、無断転載は一切禁止します。

2017富士フイルム営業写真コンテスト作品集
No.185 スタジオメモ継承
発　行――平成29年12月1日
発行所――〒141－0031　東京都品川区西五反田3－6－32
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
富士フイルム営業写真コンテスト事務局　03(6417)3770

FUJIFILM
Value from Innovation

この笑顔は、しっかり未来に持って行く。

2017 富士フイルム営業写真コンテスト 金賞「未生STYLE」荒木敬介 はこざき写真館

いまこの瞬間にしか逢えない、輝くような笑顔。お客様の思いと写真館の技術が織りなす特別な一枚を、確かな品質のプリントとしてお届けするのが、写真館向けプロラボサービスです。銀塩写真ならではのプレミアムな輝きと存在感がここにあります。これからも、富士フイルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。

フィルムから、データから、高品位なプリント・アルバムサービス。詳細はお取引ラボにご相談ください。

質を高めるプロラボ利用。
プロフェッショナル専用ペーパーの使用と、常に安定した色管理。出力のプロによる高品位プリントは写真館の信頼性アップに大きく貢献します。

効率を高めるプロラボ利用。
高度な技術が要求されるプリント、お客様の好みによって変わるアルバムへの対応。ラボの利用により、様々な業務の効率化が可能です。

余裕を生むプロラボ利用。
アルバム制作など、撮影後の作業をラボに依頼することで、お客様とのコミュニケーション、スキルアップなどにあてる時間の余裕が生まれます。

フィルムから、データから、高品位な銀塩プリント
写真館向け
プロラボサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　営業推進部　プロ営業支援グループ　〒141-0031　東京都品川区西五反田3-6-32　TEL.03(6417)3770